

主催者・来賓あいさつ

■ 開会あいさつ 岐阜県 古田知事

自動車や航空機産業を中心としたものづくり中部において、東海環状自動車道東回りが果たした役割は絶大でした。東回り区間開通後も、「人を活かすコンクリートは人への投資だ」と訴え、西回りを一刻も早く整備することの重要性を言い続けてきました。

岐阜県では今年度、養老JCTから養老ICの開通が予定されています。しかし、全線160kmのうち、開通目処の立っていない区間も43kmありますので、早期全線開通に向け引き続きご支援ください。



■ 開会あいさつ 三重県 鈴木知事

三重県の有効求人倍率は直近で1.61となっており、バブル期と同じ水準です。特に、製造業は人手不足感があります。人口減少等で新規雇用が難しくなっており、中部地域が更なる成長をしていくためには生産性革命が必要で、東海環状の早期全線開通がその鍵となります。

また、平成30年に四日市港に外国クルーズ客船が6回就航することが決まりました。西回りの活用で、四日市港を窓口にした岐阜方面への新たなインバウンドのルートが出来ます。早期開通に向けてがんばります。



■ 来賓あいさつ 中部地方整備局 塚原局長

東海環状自動車道は、最重点事業として整備を進めており、現在西回りの整備を全面展開しています。昨年度は新四日市JCTから東員IC間が開通し、今年度には開通予定の養老JCT～養老IC間をはじめ、平成30年度、平成31年度の開通予定区間を着実に進めていきたいと考えております。

全線開通を早期に成し遂げることが我々の最大のミッションです。引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願いします。



■ 閉会あいさつ 岐阜県養老町 大橋町長

本日は、岐阜経済大学 竹内教授のお話、また、パネルディスカッションでは沿線各界の皆様より、東海環状自動車道の整備効果や、全線開通に対する多くの期待の声を頂き、早期整備の必要性について再認識したところでございます。

本協議会では、幅広いご協力を頂きながら、ストック効果を広くPRし、早期完成に繋げていきたいと考えております。今後も、力強いご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



《基調講演・コーディネーター》

整備の概要



岐阜経済大学
経営学部 教授
竹内 治彦氏

1960(昭和35)年 富山県富山市生まれ
1991(平成3)年～1998(平成10)年 日本労働研究機構
(現(独)労働政策研究・研修機構)海外情報研究員
1992(平成4)年 岐阜経済大学着任 平成25年～29年副学長

委員・公職等：

大垣商工会議所交流産業戦略会議アドバイザー、
岐阜県職業能力開発審議会会長、
岐阜県信用保証協会監事、岐阜県人口問題研究会座長、
大垣市、関ヶ原町、山県市、白川町の地方創生戦略会議座長

東海環状地域整備推進協議会シンポジウム ものづくり中部の生産性を高める 東海環状自動車道 ～中部地方に集積するものづくり産業の支援～

《議事次第》

1.開会

2.基調講演

テーマ：「東海環状自動車道を通して中部圏が果たす役割」

3.パネルディスカッション

テーマ：「ものづくり中部の生産性を高める東海環状自動車道」
～中部地方に集積するものづくり産業の支援～

4.閉会

◇日時：平成29年7月19日（水）15：30～17：30

◇場所：名古屋市中小企業振興会館 吹上ホール メインホール7階



1 基調講演

「東海環状自動車道を通して中部圏が果たす役割」

岐阜経済大学
経営学部 教授
竹内 治彦 氏



道路整備によって、自分たちにメリットあるということだけでなく、日本全体にとって貢献があるかの視点が重要です。また、道路を使ってどういった効果を作り出していくかが非常に大切です。投資効果は厳しく求められている中で、できるだけ経済効果を数値化していくことも求められます。

交通集中の緩和として、いわゆる渋滞の緩和、環状道経由だけでなく、湾岸道への誘導効果も期待します。また、東海環状道は強振動予測地域を避けたルートであり、災害支援物資の搬送や、BCP支援に役割を果たし、部品生産の多い中部地方にとって非常に重要です。さらに、東京・京都・大阪のゴールデンルートに対して、第2、第3の定番コースを世界に向けて発信することが、日本の観光産業の稼ぐ力を高めます。加えて、中濃、飛騨の農産物は、関東へは時間短縮、関西へは集荷方式の改善で流通の課題を解決します。

2 パネルディスカッション

「ものづくり中部の生産性を高める東海環状自動車道」

～中部地方に集積するものづくり産業の支援～

上段：テーマ①「高速道路の現在の利用状況と東回り完成後の効果」

下段：テーマ②「東海環状全線開通への期待、我が国の経済成長を牽引するものづくり中部の発展に向けた効果」

トヨタ車体（株）
常務役員 いなべ工場長
片山 純裕 氏



西回り沿線に位置するいなべ工場では、完成車両を年間約20万台生産しています。部品は三河方面から1日往復で1,120便を高速道路を利用して運んでいます。JIT方式では部品納入が遅れるとライン停止に繋がり、時間信頼性が大変重要となるため、高速道路はなくてはならない存在です。

東海環状道の大安ICが開通すると三河方面は現状より20分短縮、全線開通後は岐阜方面の輸送便は30分短縮し、物流コストの低減やCO2削減などにつながるほか、緊急輸送路として大きな役割を果たします。

ナブテスコ（株）
航空宇宙カンパニー
岐阜工場長兼総務部長
竹林 亘 氏



国内最大の航空機産業集積地である中部地域において更なる成長が期待されています。東海環状道の活用によりスケジュール遅れのリスク低減に期待しています。

東海環状道の完成により、遅延リスクが少なくなるので、JIT方式の導入が実現できると考えています。また、美濃地区や四日市地区における協力会社の開拓も考えられ、さらに、通勤圏が拡大するため、人材獲得面の効果に期待しています。物流面でも利便性や生産性が高まり、今以上にコスト競争力、納期遵守率の向上が図れると期待しています。

日本通運（株）
名古屋ロジスティクス支店支店長
小林 篤弘 氏



トラック業界においてもドライバーの人手不足があり、生産性向上が不可欠となっています。トラック事業者にとって、最も大事なのはドライバーの安全です。高速道路は一般道に比べ死傷事故率が小さいため、高速道路を利用するほど安全性は高まります。

将来の航空機物流において、工場の在庫の最小化が期待され、調達先を巡回するミルクラン輸送を進めています。ミルクランにおいて定時運行をするためには、時間信頼性の高い高速道路の利用が鍵となり、西回りにも期待しています。

岐阜県大野町
町長
宇佐美 晃三 氏



東海環状東回りが開通して10年以上が経過し、企業立地が進み、東回り区間の工事着手以降で約150社が立地し、約3.6万人の雇用が創出されました。また、土岐市には土岐プレミアムアウトレットが開業し、年間約740万人が来客する岐阜県内NO1の集客施設となっています。

平成31年度には大野・神戸ICの開通が予定され、名神高速に直結する予定です。大野町では、北部に工業団地整備を進めております。また、IC周辺については、商業施設や物流拠点となることを期待してまちづくりを進めています。

（一社）中部経済連合会
常務理事
栗原 大介 氏



交通インフラの整備が、高度成長期において中部地域の産業を発展させ、わが国経済を牽引する基礎となってきました。西回りについても既に開通を見越した企業立地が進んでいます。

西回り区間の完成は、物流効率化、企業立地および地域活性化に寄与することが期待されます。また、滋賀県や北陸地域と名古屋港や四日市港、セントレアを結んで新たな取引が生まれてくる可能性があります。さらに、観光分野において、いかに面的に移動しやすくすることが重要です。強靱化の観点からもゼロメートル地帯を抱える中部地域にとって西回りは重要です。

会場の様子（約400名が参加）

